第２学年４組　社会科学習指導案

研究主題

生徒一人一人が学びの深まりを実感できる単位時間の授業づくり

１．単元名　近世の日本　江戸幕府の成立と東アジア

２．指導観

○　本学級の生徒(男子１８名，女子１８名)の生徒は常に明るく元気で，何事にも意欲的に行動できる生徒が多い。男女とも仲が良く，学級への声かけも積極的に行うことができる。学習に対しても意欲的な態度で参加し，発問に対しては常に積極的に手を挙げて発言する場面が多くみられる。わからない課題に対しては，友人や教師に質問したり，話し合ったりする雰囲気が自然と生まれる集団である。一方で，理解度には個人差があり，特に資料の読み取りについては困難を示す生徒も少なくない。また，学習したことから自分の意見を記述することに苦手意識をもつ生徒が多く，自分の考えに自信をもって発言することに課題がある。そこで，単元をつらぬく問いを基に毎時間のまとめ・振り返りを丁寧に行い，学習内容の定着を図る。そして資料を活用してさまざまな立場から課題に対する自分の意見を形成し，表現させる学習を行う。さらにグループでの話合を行うことで，他者の意見を取り入れた深い学びにつながると考える。

○　本単元では，江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，鎖国下の対外関係，身分制度の確立などを通して，江戸幕府の政治の特色を考えさせ，幕府と藩による支配が確立したことを理解させることをねらいとしている。特に江戸幕府の政治の特色については，中世の武家政治との違いに着目して考察させる。中世から近世への転換の様子を，幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどをふまえて，自分の言葉で表現できるようにさせる。

○　指導に当たっては，小学校での既習内容をふまえて幕藩体制の確立や鎖国政策，身分制度などについて，当時の人々の姿を描いた諸資料を読み取る活動の中で，具体的なイメージをもって考察させるようにする。

そのために，単元のめあてとして，「中世と比べて近世はどのような時代といえるか」という問いを立てて学習を進める。これを明らかにするために，江戸幕府が２６０年間も維持できた理由として幕府が中世社会で力を持っていた諸勢力に対しておこなった政策を表にまとめ，そのねらいを記述させていく。

さらに，作成した表をもとに，幕府は「どの勢力に対して特に力をいれていた」のかという問いから自分の意見を記述させ、中世から近世への時代の転換と近世社会の特色に気付かせたい。勢力については，中世社会で力を持っていた「大名」，多くの荘園を持っていた「天皇・公家」，「寺院」，都市や村で自治を強めていった「人々(百姓)」，そして大航海時代における「外国(ヨーロッパ勢力」」を挙げている。この勢力の中から一つを選択し，その理由について資料などを活用して記述させていく。

考察の際は，さまざまな意見をもつ他者と意見交換をすることによって，時代の転換を多面的・多角的に考察させる機会を設ける。話合の中でさまざまな視点から中世との比較を行い，課題を考察することで，中世と比べた近世の時代の特色を捉えさせる。最後に，単元のめあてに対する自分の考えを記述させてまとめとしたい。

３．本単元における主体的・対話的で深い学び・学習評価の工夫

○　主体的・対話的で深い学びの工夫について

本単元では自分の意見を形成するために，単元を貫く問い(めあて)として「中世と比べて近世はどのような時代なのだろう」という問いを設定した。その上で，毎回の授業の振返りとして，江戸幕府が行った政策とそのねらいについて記述させた。基本的な政策とそのねらいをおさえたことで，学習課題に対して主体的に向き合い，自分の意見とその理由を考えることができるようにした。ま

た，話合では自分の意見を記述した後に，同じ意見を持つ小グループの中で意見交換をさせ，自分の意見に説得力をもたせるよう工夫した。その後，多様な意見を持つグループで再度課題について話合い，結論を出させることで，学習課題をより多面的・多角的にとらえ，さまざまな視点から考察させるようにした。

○　学習評価の工夫について

学習評価については，ワークシートと話合活動，発表の活動から評価する。資料や既習知識を基に，説得力のある意見を述べるために自分の意見とその根拠を挙げることができているか，小グループではグループ員に対してわかりやすく自分の意見を発言できているか，またグループの意見をまとめ，全体に分かりやすく提示できているかという観点から評価を行う。最後のまとめでは，自分の意見をさまざまな立場への政策のねらいの視点を取り入れてワークシートに表現できているかを評価する。また，自己評価として「話し方ステップ・聞き方ステップ表」をもとにした評価表を活用する。

４．特別な教育的支援を要する生徒に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	対象生徒	番号
資料から読み取ることが苦手	資料のどこを重点的に読み取るか，注目すればよいかを助言する。	A	①
自分の意見をもつことが苦手	立場を明確にさせ，資料から根拠を見つけることができるように助言する。	A B	②
自分の意見を伝えることが苦手	・グループ員の構成の工夫 ・机間指導の際に，ワークシートをもとに自分の意見を伝えられるよう助言する。	B	③

５．目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○　江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，鎖国下の対外関係，身分制度の確立などに対する関心を高め，意欲的に追及しようとする。
社会的な 思考・判断・表現	○　江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，鎖国下の対外関係，身分制度の確立の背景について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現できる。
資料活用の技能	○　江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，鎖国下の対外関係，身分制度の確立などに関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりできる。
社会的事象についての 知識・理解	○　江戸幕府の成立と大名統制，鎖国政策，鎖国下の対外関係，身分制度の確立などについて，理解し，その知識を身に付ける。

６．指導計画と評価計画（総時数７時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ★　特別な教育的支援を要する生徒への特に困難とされる場面での支援	評価規準及び評価方法
1　江戸幕府の成立と大名支配について調べる。 ①	○　「主な大名の配置」や「領地の割合」を参考に，幕府の全国支配と大名統制の仕組みを調べさせ，その支配が約２６０年間続いたことから学習の見通しをもたせ	【関】江戸幕府の政治の仕組みについて関心をもち，意欲的に追及しようとしている。（ワークシート分析）

	る。 ○　江戸幕府の成立過程と大名統制の様子を通して，幕府政治の仕組みを理解させる。 ★手だて①	
2　鎖国政策のねらいについてまとめる。 ①	○　幕府がキリスト教の広がりをおそれたことや，オランダ・中国との貿易の利益を独占しようとしたことに気付かせる。 ○　前時で学習した幕府の政策と関連付けさせる。	【知】鎖国政策などのねらいについて，理解し，知識を身に付けている。 (ワークシート分析)
3　幕府の鎖国政策下における隣接地域との交易や交流について調べる。 ①	○　島津氏の琉球支配の様子や松前藩の蝦夷地におけるアイヌ支配の様子に着目させる。	【技】朝鮮，琉球，蝦夷地などとの関係について，調べ表にまとめている。 (ワークシート分析)
4　身分の違いや年貢を納める様子を描いた絵や幕府のお触書などから，当時の人々の暮らしについて気付いたことを発表する。 ①	○　百姓や町人の様子を具体的にとらえさせ，民衆支配がどのように進められたかに関心をもたせる。 ○　江戸時代の村や町人の様子や，身分制の確立を通して幕府の民衆支配の仕組みを理解させる。	【思】江戸時代の村や町の様子や身分制度の確立を通して，幕府の支配の仕組みを考え表現している。 (ワークシート分析)
5　近世社会の時代の特徴を捉えさせる。 **〈本時〉②**	**◎　ワークシートをもとに，江戸幕府がどの勢力の力を押さえることに対して力を入れたか資料を活用して話し合う。** **○　江戸幕府が天皇や公家，大名，寺社などに対して行った政策とそのねらいを整理することを通して，武家の全国支配が確立したことが近世の特色であることに気付かせる。** **★手だて②③**	**【思】江戸幕府の政策により，武士による全国支配が確立したことを，中世と比べながら考え説明している。** **(発言，ワークシート分析)**
6　中世から近世への時代の転換について考える。 ①	○　前時の学習をもとに，江戸幕府の支配が２６０年間も続く基礎を確立させたことを，中世と比べながら説明させる。 ★手だて③	【思】中世と比較した，近世への時代の転換を自分の言葉で説明する。 (ワークシート分析)

７．本時の学習　平成３０年１０月２３日(火)　第５校時　２年４組教室

⑴　主　眼　　江戸幕府が行った諸勢力への政策のねらいについて話し合う活動を通して、近世社会の特色を考察できる。

⑵　準　備　ワークシート，資料，タイマー，ホワイトボード，話合い・発表カード

⑶　展　開

主な学習活動・内容	○　指導・支援上の留意点　【観点】評価規準(評価方法) ★　特別な教育的支援を要する生徒への特に困難とされる場面での支援のポイント
１．前時学習を想起し，本時のめあてを確かめる。諸勢力については，資料やスライドで大まかに復習を行う。	○　中世社会の様子を振り返り，大きな力を持っていた諸勢力について確認する。 ○　前時に話し合った各勢力への政策とねらいについて表をもとに確認を行い，これまでの学習を確認させる。
めあて　　近世とはどのような時代なのだろう。 ～グループでの話合を通して，近世の特徴を説明しよう～	
２．学習課題の確認 江戸幕府は、２６０年間も全国を支配することに成功しました。これまでの学習を振り返って,「江戸幕府はどの勢力を押さえることに対して一番力を入れたと」考えますか。根拠を明らかにしてグループで考えをまとめましょう。	○　「大名」「外国」「百姓」「その他(天皇・公家・寺社)」の中から一つ選択したものについて，それぞれの立場への政策とねらいの内容を復習し，全員が活動に参加できるようにする。
３．小グループの活動① (同じ意見のグループ) 【予想される意見】 百姓…武士の生活は百姓の納める年貢によって生活を支えられていたから。 一揆をおこされては困るから。 大名…きまりを守らせることで力を弱らせることができるから。 他の大名に権力を奪われないようにするため。 外国…キリスト教が入ってきたせいで反乱が起きたから。 天皇…政治から切り離せば安定した政治ができるから。	○　前時に作成した自分の意見を基に，同じ意見を持つグループの中で意見交換を行う。自分の意見をより説得力をもたせて話合に参加できるようにする。 ○「話し方ステップ」・「聴き方ステップ」を活用する。 ★　事前に意見の内容と発言する内容を把握し，班構成の工夫を行う。班員の意見から自分の考えをまとめられるように促す。 (発言分析，ワークシート分析)
４．小グループの活動② (違う意見のグループ) 学習課題に対してさまざまな意見を持つグループで根拠を明らかにしながら自分の意見を発表する。グループで幕府が	○　役割(司会・記録・時間など)を明確にして円滑に話合いが進むように配慮する。 ○　それぞれの考えをグループでホワイトボードにまとめさせる。また，スムーズに発表ができるよう発表カードを参考に発表内容を作成させる。 (発言分析)

力を入れたと思う順にランキングを作成する。	
5．グループで話し合った内容について，理由を含めて発表させる。	○　ホワイトボードをもとに，グループでまとまった理由とその根拠となる資料も含めて発表させる。足りない事項については，資料を用いて補足して説明するようにする。 ○　話し方ステップ・聞き方ステップを意識させる。
6．各グループの結論から共通する点について再度グループで話し合い、発表させる。 【予想される意見】 ・それぞれの勢力に対して厳しいきまりを守らせている。 ・反乱を防ごうとしている。 ・経済力を落とそうとしている。	◎　各グループの主張とその理由のポイントをメモさせ，新たな考えや視点に気付かせ，自分の意見を深めさせる。
7．本時のまとめを行う。	○　各勢力への幕府の政策とねらいの共通事項から，近世の時代の特徴を記述させる。
【まとめの例】 A 評価「中世社会で力を強めた勢力に対して，江戸幕府が法令を厳しく守らせ，各勢力が結びつくのを防ごうとしたこと。また，大名統制や身分制，鎖国体制によって，幕府が強力な経済的基盤を確立したこと。」 B 評価「中世社会で力を強めた勢力に対して，江戸幕府が法令を厳しく守らせ，幕府以外の勢力が結びつくのを防ごうとしたこと。幕府の政策によって，強力な全国支配が行われたこと。」 C 評価「江戸幕府によって諸勢力の力を徹底しておさえたこと。」	
8．本時の学習を振り返る。	○　本時の話合活動を振り返り，新たにわかったこと，意見が深まったことなどについて記述させる。 ○　話合，発表の仕方について自己評価を行い，今後の学習につなげる。

ご指導よろしくお願い致します。